

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 4

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日、花の万博跡地の鶴見緑地に設立されたのが（財）国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

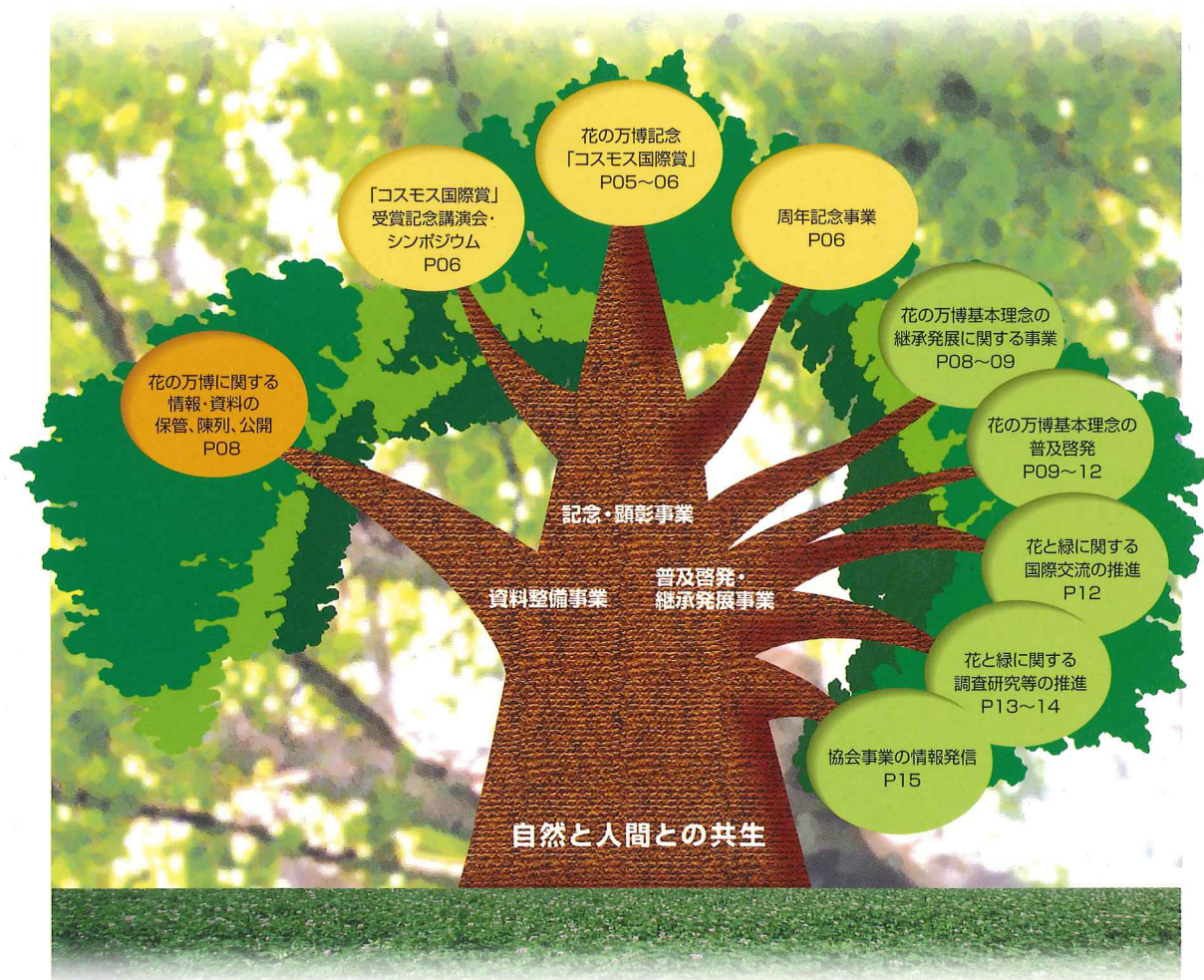
2004年度は、記念協会の主要事業である「コスモス国際賞（第12回）」に、メキシコ国立自治大学教授のフーリャ・カラビアス氏を選出しました。カラビアス教授は、メキシコの環境条件が異なる4つの州で「天然資源の統合活用プロジェクト」に取り組み大きな成果を上げられました。

また、普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

2005年度におきましても、これまでの実績を踏まえながら、事業および組織運営の強化・刷新を図っていきたいと考えております。新たな事業についても積極的に取り組み、理念の実現と新しい世紀にふさわしい新しい発想を生み出せる組織であり続けたいと思います。

皆様方の当協会に対するさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

国際花と緑の博覧会記念協会(以下、記念協会)は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であるとする。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・ 顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2004年(第12回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)および学識経験者9名(国内7名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成16年(2004年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会開催(平成15年10月20日)

平成16年の選考の手続き、推薦人、今後の日程を決定。

第1回選考委員会開催(平成16年1月28日)

第1回賞委員会の方針に基づき、世界45カ国の学識経験者827人の推薦人に推薦を依頼するとともに、今後の日程、選考作業の予定等を確認。

第2回・第3回選考委員会開催(平成16年5月24日、5月26日)

選考対象の122件の推薦に基づき、慎重な選考作業を実施。

第2回賞委員会(平成16年6月30日)

2004年コスモス国際賞受賞者にフーリャ・カラビアス・リジョ教授(メキシコ メキシコ国立自治大学理学部教授)を決定。

第44回理事会開催(平成16年7月20日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



第12回コスモス国際賞受賞者

フーリャ・カラビアス・リジョ教授

メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授

常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

<平成17年(2005年)受賞者の選考>

第1回賞委員会開催(平成16年10月30日)

2005年(第13回)受賞者の選考手続き、推薦人、今後の日程等を決定。

第1回選考委員会開催(平成17年1月19日)

今後の日程、選考作業の予定等についての確認をするとともに、世界43カ国の学識経験者878人の推薦人に推薦を依頼。

2004年(第12回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客および招待者約400名の参列のもと、厳粛かつ華やかに開催しました。また、祝賀演奏等も行いました。

授賞式

日 時：平成16年10月30日(土) 午後4時～午後6時

場 所：いすみホール [大阪市中央区]

出席者：約400名

次 第：開会 賞委員および選考専門委員等の紹介 来賓紹介
(メキシコ合衆国駐日大使ミゲル・ルイスカバーニャス・イスケルド閣下、農林水産省岩永峯一副大臣、国土交通省竹歳誠都市・地域整備局長) 主催者挨拶
授賞理由および受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



記念レセプション

日 時：平成16年10月30日(土) 午後6時20分～午後7時30分

場 所：ホテルニューオータニ大阪 [大阪市中央区]

出席者：約350名

(来賓：北側一雄国土交通大臣、關淳一大阪市長、他)

記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

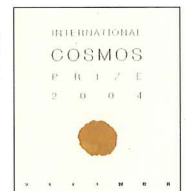
コスモス国際賞 受賞記念講演会 コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2004年受賞者フーリャ・カラビナス・リジョ教授による講演を実施しました。

	● 東 京	● 大 阪
日 時	平成16年10月25日(月) 13:30~	平成16年10月28日(木) 13:30~
場 所	お茶の水女子大学 講堂 [東京都文京区]	オーバルホール [大阪市北区]
テーマ	地球環境の変化と21世紀の持続的発展への挑戦	
シンポジウム	パネリスト フーリャ・カラビナス・リジョ教授 黒田大三郎(環境省自然環境局自然環境計画課長) 藤本 彰三(東京農業大学教授) 鷺谷いづみ(東京大学大学院教授) コーディネーター 中村 桂子(JT生命誌研究館館長)	パネリスト フーリャ・カラビナス・リジョ教授 阿部 健一(国立民族学博物館助教授) 古川 彰(関西学院大学教授) 増田 美砂(筑波大学助教授) コーディネーター 秋道 智彌(総合地球環境学研究所教授)
参加者	約700名	約150名
後援名義	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、駐日メキシコ合衆国大使館、日本生態学会	



2004年コスモス
国際賞報告書の
作成

2004年(第12回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、構成、授賞式および記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 75頁)を作成(1,300部)し、国内外の関係者に配付しました。



周年記念事業

コスモス国際賞
10周年記念事業

コスモス国際賞の創設10周年を記念して、歴代の受賞者の研究業績、記念講演会、シンポジウムなどを採録した「コスモス国際賞10周年記念誌」(英語版 A4版 294頁)を発刊し、海外の科学アカデミー、科学雑誌社ならびに関係者に配付しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成16年4月現在

委員長 有馬 朗 人 参議院議員
副委員長 長 倉 三 郎 日本学士院長
委員 岩 槻 邦 男 放送大学教授
委員 梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
委員 河 合 隼 雄 文化庁長官
委員 A.H.ザクリ 国連大学高等研究所長
委員 鈴木 昭 憲 秋田県立大学学長
委員 中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
委員 西 塚 泰 美 神戸大学前学長
委員 ベルティル・ノルデンスタム スウェーデン自然史博物館名誉教授
委員 日 高 敏 隆 総合地球環境学研究所所長
委員 オーレ・フィリップソン 博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員 サー・ギリアン・プランス エデン・プロジェクト科学部長
委員 村上陽一郎 国際基督教大学院教授

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成16年4月現在

委員長 村上陽一郎 国際基督教大学院教授
副委員長 小 山 修 三 吹田市立博物館館長
委員 井 手 久 登 早稲田大学客員教授
委員 餌 取 章 男 科学ジャーナリスト
委員 加 藤 雅 啓 東京大学教授
委員 川 勝 平 太 国際日本文化研究センター教授
委員 ナンシー・ノールトン カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
委員 ピーター・ブリッジウォーター ラムサール条約事務局長
委員 山 岸 哲 (財)山階鳥類研究所所長

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)
ギリアン トルミー プランス
Sir Ghilleen Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)
ジャック フランソワ バロウ
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)
吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)
ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)
リチャード ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士
1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)
ジャレド メイスン ダイアモンド
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)
ウー チェン イー (呉 征鎰)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)
デービッド フレデリック アッテンボロー
Sir David Frederick Attenborough



イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者
野生生物のドキュメンタリー映像のパイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)
アン ウィストン スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)
チャールズ ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

第11回 平成15年(2003)
ピーター ハミルトン レーヴン
Dr. Peter Hamilton Raven



アメリカ・ミズーリ植物園園長
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)
フーリャ カラビアス リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

※肩書きは受賞時のものです。

資料整備 事業

博覧会に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

博覧会に関する
情報・資料の保管、
陳列、提供等

3カ年計画の初年として、ハイビジョンフィルム（263本 約250時間）のダビングを行いました。

博覧会開催時より行われている「映像による日本植物誌」(PPH: プラントフォトハンティング) の映像フィルムを整理、提供するため、平成12年度からその収集、整理に当たってきましたが、平成16年度現在、約800時間の動画情報に約4,000種の野生種を収録し、データベースとして整理を行うとともに、昨年度に引き続き、DVD「スマレシリーズⅡ 希少・固有・絶滅危惧植物シリーズ」を作成しました。



愛知万博等、今後開催が予定されている博覧会および各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を右のとおり行いました。

(財)2005年日本国際博覧会協会	9件
国・地方自治体	3件
企業等	6件

普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物
調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状を把握、植物の保存・活用、栽培・育種技術の継承、組織や人材等に関する情報を収集し、伝統園芸植物の保存・活用にかかる課題について検討を行いました。

KOSMOS
フォーラム

わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成16年度は「21世紀の新しい生命観を探る」を統一テーマとし、3回のフォーラムを開催しました。

第4回 テーマ「生命とは何か、人間とは何か」 ～生命の起源から人間まで～

日 時：2月5日(土) 午後1時30分～4時30分

場 所：ザ・フェニックス・ホール [大阪市北区]

基調講演：テーマ「人間の由来」

講 師：河合雅雄（兵庫県立丹波の森公苑長）

パネリスト：秋道智彌（総合地球環境学研究所教授）

池内 了（名古屋大学大学院教授）

佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）

鷲田清一（大阪大学大学院教授）

コーディネーター：小山修三（吹田市立博物館館長）

参加者：約220名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



第5回 テーマ「いのちのデザイン」

日 時：3月2日(水) 午後1時30分～4時30分

場 所：リーガロイヤルホテル京都 [京都市下京区]

基調講演：テーマ「自然の中のいのちを考える」

講 師：日高敏隆（総合地球環境学研究所所長）

パネリスト：佐藤洋一郎（総合地球環境学研究所教授）



杉浦康平（デザイナー）
 原田 昭（筑波大学大学院教授）
 深井晃子（静岡文化芸術大学教授）

コーディネーター：秋道智彌（総合地球環境学研究所教授）

参加者：約260名

共 催：総合地球環境学研究所

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
 京都府、京都市、大阪府、大阪市、日本学士院



第6回 テーマ 「人々の暮らしと生命の科学」

日 時：3月13日(日) 午後1時30分～4時30分

場 所：名古屋大学野依記念学術交流館 [名古屋市千種区]

基調講演：テーマ「ヒューマンサイエンスから見たいのち」

講 師：馬場俊彦（名城大学大学院教授）

パネリスト：岩槻邦男（放送大学教授）

垣谷宏子（名古屋商科大学教授）

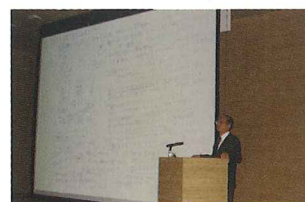
郷 通子（長浜バイオ大学教授）

高倍昭洋（名城大学大学院教授）

コーディネーター：池内 了（名古屋大学大学院教授）

参加者：約180名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
 大阪府、大阪市、日本学士院



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー コスモス賞の意義、ひいては「自然と人間との共生」の理念の周知のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、国、地方公共団体および企業等との共催でセミナーを平成6年度から行っています。
 平成16年度は、前年度に引き続き屋外での自然観察（フィールド型）セミナー並びに講師派遣型セミナーを実施しました。

「自然観察教室」
 ～生まれ昆虫
 好きな子供たち
 2004～

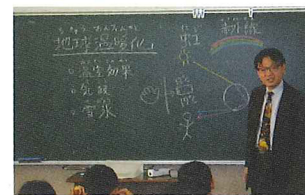
日 時：平成16年7月28日(水)～30日(金)
 場 所：関西学術研究都市高山地区アイアイランド [大阪府四條畷市]
 講 師：保田 淑郎(大阪府立大学名誉教授)
 小汐 千春(鳴門教育大学講師)
 谷 幸三(関西トンボ談話会事務局長)
 南 尚美(奈良生物研究会幹事)

参加者：近畿圏の小学5・6年生、中学1年生24名
 特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団
 後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、
 四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、
 日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、
 日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、J T 生命誌研究館



小学校講師派遣

テーマ	「地球温暖化って何？」	
日 時	平成16年12月7日(火)	平成17年2月24日(木)
場 所	奈良市立鶴舞小学校 [奈良県奈良市]	大阪市立横堤小学校 [大阪市鶴見区]
講 師	早坂 忠裕（総合地球環境学研究所教授）	
参加者	小学4年生（4時間目） 42名 小学6年生（5-6時間目） 53名	小学5年生（5-6時間目） 97名



普及啓発・
継承発展
事業

◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第14回(2004年) 花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたコンクールです。事業の実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、次のとおり実施しました。

応募数：1,502件

入賞：農林水産大臣賞および国土交通大臣賞 各2点をはじめ12点

表彰式

日時：平成16年10月26日(水)

場所：虎ノ門パストラル(東京都港区)

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)日本花の会、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕

後援：全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本放送協会、(社)日本新聞協会、(社)日本経済団体連合会



ジャパンフラワーフェスティバル 花の万博を契機に、花いっぱい国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されています。今回は第14回であり、ジャパンフラワーフェスティバルしずおか2004実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

日時：平成16年5月22日(土)～30日(日)

場所：浜名湖花博「国際花の交流館」(静岡県浜松市村櫛町)

入場者：173,784人

主催：ジャパンフラワーフェスティバルしずおか2004実行委員会

〔静岡県、浜松市、(財)日本花普及センター、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)静岡国際園芸博覧会協会ほか〕

後援：農林水産省ほか



◆花の万博開催地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体および関連団体と共同して実施しました。

第20回 大阪府 花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成16年度は枚方市で開催された第20回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画しました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、パネル展示やチラシ配布を行いました。

日時：平成16年11月6日(土)～7日(日)

場所：府営山田池公園(大阪府枚方市)

来場者：約13,000人

主催：第20回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など



まちの緑花 関連団体：(財)大阪府公園協会

ボランティア 府営公園をはじめ、まちにおける持続可能で美しい緑化を府民とともに推進するために、花と緑、特に草花管理「緑花」に関する技術や指導手法、活動指針などのテキストブックを作成する事業を行いました。

リーダー育成

マニュアル作成

みんなで育てる 関連団体：(社)大阪府公園・都市緑化協会

花いっぱい プロジェクト 小・中学校等に対して花苗の資材提供、講師派遣による技術指導を行い、学校や駅前等の公共スペースで活動する緑化ボランティアに花苗を提供するプロジェクト事業を行いました。



グリーン
コーディネーター
育成事業

関連団体：(財)大阪市公園協会
花と緑あふれる大阪のまちづくりを推進するため、花のまちづくりの専門的な知識や技術を有し、緑化ボランティア活動の中心的な役割を担うグリーンコーディネーターの育成を行う事業を行いました。



鶴見図書館・
花と緑の図書
コーナー拡充

花の万博の開催を契機に設置され、基本理念や花と緑に関する知識の普及啓発に継続的に寄与してきた鶴見図書館花と緑の図書コーナーについて、同館の建替え移転を機にコーナーの図書を拡充する事業を行いました。

UNEP国際環境
技術センター
開設10周年記念
シンポジウム

花の万博の理念を継承し、大阪の環境保全に関する経験を生かすため、1994年開設された地球環境保全に関する国際機関UNEP国際環境技術センターの10周年を記念して、持続可能なまちづくりとこれからの都市のめざす方向を考える国際シンポジウムを共催しました。

日 時：平成16年5月7日(金)

場 所：大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)

来場者：約300人

主 催：国際連合環境計画国際環境技術センター、(財)地球環境センター

共 催：大阪府、大阪市、(財)国際花と緑の博覧会記念協会



◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました(別表参照)。

第20回IFPRA
世界大会(公園
レクリエーション
世界大会in浜松)

公園、レクリエーション、アメニティ、余暇対策およびそれらに関連するサービスの振興のために、国際的な関係を促進させることを目的に国内外の公園管理の専門家が集う「公園レクリエーション世界大会in浜松」の組織委員会に参画、協賛しました。

大会テーマ：新たな展開に向けて、みどりのルネッサンス

主 催：(社)日本公園緑地協会、(財)公園緑地管理財団、静岡県、浜松市、IFPRAジャパン

日 時：平成16年9月6日(月)～10日(金)

場 所：静岡県浜松市(アクロシティ浜松)

参加者：約700名



都市緑化推進
運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4～6月)および都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間

平成16年6月の第22回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛しました。

近畿都市緑化祭

近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催している。平成16年度は、大阪府で開催された「グリーンサーカス2004」に対して事業の支援、協賛を行いました。

日 時：平成16年10月30日(土)・31日(日)

場 所：大阪城公園内 太陽の広場(大阪府大阪市)

来場者：約4,300人

主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会

内 容：記念講演会、緑化の写真や絵日記等の展示、みどり技術の紹介コーナー、遊具利用安全キャンペーン、緑化相談など



普及啓発・
継承発展
事業

後援等一覧

●催事名（開催期間）	●開催場所	●主催	●名義
小品盆栽フェア「第12回春雅展」 (H16.4.3～4.4)	花博記念公園鶴見緑地内 「水の館」	(社)全日本小品盆栽協会	後援
第25回ハンギングバスケット展 (H16.4.6～4.18)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協会、 咲くやこの花館	後援
静岡国際園芸博覧会「パシフィックフロー ラ2004」(H16.4.8～10.11)	浜名湖ガーデンパーク (静岡県浜松市)	(財)静岡国際園芸博覧会 協会	後援
第6回「国際バラとガーデニングショウ」 (H16.5.14～5.19)	「西武ドーム」 (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングシ ョウ組織委員会	後援
大阪ばら祭2004 (H16.5.21～5.23)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	(財)日本ばら会関西支部	後援
エコ・グリーンテック2004 (H16.5.26～5.28)	「東京ビックサイト」 (東京都江東区)	エコ・グリーンテック実行 委員会、環境緑化新聞	協賛
第3回琵琶湖外来魚駆除の日 (H16.5.30)	草津市烏丸半島多目的広 場（滋賀県草津市）	琵琶湖を戻す会	後援
第52回朝顔品評会 (H16.7.28～8.1)	大阪市花と緑と自然の情報セ ンター（大阪市東住吉区）	大阪朝顔会	後援
遊具の安全に関する国際シンポジウム (H16.9.5)	アクトシティ浜松（静岡 県浜松市）	(社)日本公園施設業協会	協賛
第26回ハンギングバスケット展 (H15.9.28～10.17)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協会 咲くやこの花館	後援
平成16年度「都市緑化月間」 (H16.10.1～10.30)	全国	国土交通省、都道府県、市 町村	協賛
第41回大阪城菊の祭典 (H16.10.18～11.14)	大阪城公園内（本丸地区）	大阪市	後援
鶴見はなぽ～とプロッサム花のカーニバル 2004 (H16.11.3～11.6)	鶴見はなぽ～とプロッサ ム（大阪市鶴見区）	鶴見はなぽ～とプロッサム 花のカーニバル実行委員会	後援
かんさいフラワーショー2004 全国花の 品評会 (H16.11.19～11.21)	花博記念公園鶴見緑地内 「水の館」	かんさいフラワーショー 2004実行委員会	後援
花の都ぎふ運動15周年記念 花フェスタ 2005ぎふ (H17.3.1～6.12)	花フェスタ記念公園（岐 阜県可児市）	花フェスタ2005ぎふ実行 委員会	後援
小品盆栽フェア「第13回春雅展」 (H17.3.26～3.27)	花博記念公園鶴見緑地内 「水の館」	(社)全日本小品盆栽協会	後援
第15回＜全国公募＞花の美術大賞展 (H17.3.27)	アステシアかさい（兵庫 県加西市）	加西市「花の美術大賞展」 実行委員会	後援

花と緑に関する国際交流の推進

国際園芸博覧会への出展、海外日本庭園の実態調査等の国際交流を推進することを目的として、平成16年度は関連する情報収集および連絡調整を行いました。

花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博の基本理念の継承発展または普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するため、平成16年度助成事業の公募、審査、助成を実施するとともに、平成17年度助成事業の公募、審査、助成対象の決定を行いました。

平成16年度助成事業

①公募および審査

公 募：平成16年4月19日(月)～5月10日(月)

応募案件：36件

審 査：学識経験者8名による審査会を設置し、審査を行いました。

・一次審査：平成16年6月8日(火) 提出書類にもとづく審査

・二次審査：平成16年6月18日(金) 応募団体のプレゼンテーション審査

②助成の実施

審査会の審査結果報告をもとに助成対象の17団体(次頁別表A)を決定し、7月1日以降、事業助成しました。

平成17年度助成事業

①公募および審査

公 募：平成16年12月1日(水)～平成17年1月11日(火)

応募案件：54件

審 査：

・一次審査：平成17年1月25日(火)～2月14日(月)

提出書類にもとづく審査

・二次審査：平成17年2月25日(金)、3月3日(木)

大阪・東京で応募団体のプレゼンテーション審査

②助成対象の決定

審査会の審査結果報告をもとに助成対象の16団体(次頁別表B)を決定しました。

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成17年3月31日現在

委員長	近 藤 公 夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼 崎 博 正	京都造形芸術大学 副学長
委員	今 西 英 雄	東京農業大学農学部 教授
委員	佐 倉 統	東京大学大学院情報学環 助教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長 村 智 司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服 部 明 世	大阪芸術大学芸術学部 教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授



普及啓発・
継承発展
事業平成16年度花博
記念協会助成対
象一覧表 (別表A)

事業区分	事業名	助成対象者名
調査研究	「海外の日本庭園」の調査	社団法人 日本造園学会
	東北地方におけるエンレイソウ属の調査研究	みちのく植物研究会
	中京地域の社叢における樹種等調査	特定非営利活動法人 社叢学会
	継続的園芸活動がもつ高齢者への健康増進効果に関する研究	長野県園芸福祉研究会
	園芸療法と動物介在療法	麻布大学動物人間関係学研究室・ドルフィンプロジェクト
活動	癒しの園芸の会の実習花壇と農園の整備並びに維持管理作業と、障害者・高齢者との園芸交流推進	ボランティア団体 癒しの園芸の会
	コミュニティガーデン・ネットワーク交流事業	コミュニティガーデン・ネットワーク
	巨樹・古木 くおじいさんの木をみつけよう	特定非営利活動法人 おおさか緑と樹木の診断協会
開催事	アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム	アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム2004組織委員会
	子供たちとつくる花いっぱい街づくり事業	財団法人 大阪府みどり公社
	みどりの5団体合同フォーラム	みどりの5団体合同フォーラム実行委員会
	第4回日本庭園国際シンポジウム	ビュージェットサウンド日本庭園協会
	第4回「琵琶湖外来魚シンポジウム」	琵琶湖を戻す会
	大泉緑地ヒーリングガーデナー養成講座	大泉緑地ヒーリングガーデナークラブ
	社会的企業による「みどり」整備に関する国際比較セミナーの開催	みどり研究会
	福祉施設における「グリーン化」セミナーの実施	財団法人 たんぽぽの家
	カラスフォーラム 都市におけるカラスと人との共存をめざして	財団法人 日本野鳥の会



おじいさんの木をみつけよう



カラスフォーラム

平成17年度花博
記念協会助成対
象一覧表 (別表B)

事業区分	事業名	助成対象者名
調査研究開発	自然史標本ラベル情報の英訳技術の開発	GBIF日本委員会標本ラベル英訳検討グループ
	在来種ニホンミツバチの分布全国調査	関西ミツバチ研究会
	園芸活動における高齢者へのストレスレベルの同定	長野県園芸福祉研究会
	東南アジア地域での外来種問題国際会議と知識の普及	生物多様性 JAPAN
	「海外の日本庭園」の調査	社団法人 日本造園学会
	切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル作成	花卉生産流通システム研究会
	西表島浦内河口域のマングローブ分布と貝類の棲息調査	国際マングローブ生態系協会
	ヌートリアが湿地植生に及ぼす影響調査と防除手法開発	外来種生態管理研究会
	葦と葦船を核とした教育・環境・国際交流事業	特定非営利活動法人 カムナプロジェクト
	「庭園植物記」展とその関連事業	財団法人 東京都歴史文化財団
活動・開催事	市民による市街地公園での『平成の森』づくり	堺千年の森クラブ
	巨樹・古木 仮称くおじいさんの木をみつけよう	特定非営利活動法人 おおさか緑と樹木の診断協会
	農産園芸福祉ボランティア育成プログラム	農産園芸福祉活動推進委員会
	浜寺公園における自然教育事業	浜寺公園自然の会
	園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成	園芸療法研究会西日本
	大泉緑地ヒーリングガーデナー養成講座	大泉緑地ヒーリングガーデナークラブ

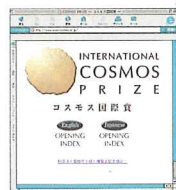
協会事業の情報発信

ホームページ
運営

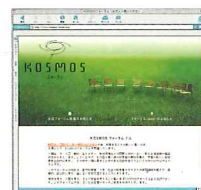
「コスモス国際賞」や「KOSMOSフォーラム」等、当協会が実施する事業の理解促進・普及のためのホームページを更新、維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

プレスネット
ワークの構築

協会事業の発信性を高めるため、新聞社と共催で下記の事業を行いました。

毎日新聞社大阪本社との共催—小中学校における生態園作り

- ①設置日：平成16年11月30日（火）
場 所：豊中市立西丘小学校
内 容：ミニ水田（12m²）と野草園（20m²）
- ②設置日：平成17年2月12日（土）
場 所：高槻市立柳川中学校
内 容：屋上ビオトープ（16m²）



豊中市立西丘小学校（大阪府）



高槻市立柳川中学校（大阪府）



奈良市立鶴舞小学校（奈良県）



奈良市立鶴舞小学校（奈良県）



豊中市立第四中学校（大阪府）



豊中市立第四中学校（大阪府）

※15年度に設置し、16年度に毎日新聞HPに報告されました。

組織運営

理事会 2004年度開催実績

	●日 時	●場 所	●議 題
第42回理事会	平成16年 4月1日(木)	虎ノ門パストラル	会長、副会長等の選任に関する件 常務理事の役員報酬に関する件
第43回理事会	平成16年 6月23日(水)	虎ノ門パストラル	平成15年度事業報告並びに収支決算に関する件 平成16年度助成事業に関する件〈報告〉
第44回理事会	平成16年 7月20日(火)	虎ノ門パストラル	2004年(第12回)花の万博記念「コスモス国際 賞」受賞者の承認に関する件
第45回理事会	平成17年 3月24日(木)	都市センターホテル	平成17年度事業計画並びに収支予算に関する件 評議員の選任に関する件 規定整備に関する件 平成17年度助成事業に関する件〈報告〉

評議員会 2004年度開催実績

	●日 時	●場 所	●議 題
第22回評議員会	平成16年 4月1日(木)	虎ノ門パストラル	理事の追加選任に関する件 評議員会長の選任に関する件
第23回評議員会	平成17年 3月17日(木)	千里阪急ホテル	平成17年度事業計画並びに収支予算に関する件

2004年度決算

収支計算書総括表 平成16年4月1日から平成17年3月31日まで 単位：円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 収入の部					
1.基本財産運用収入	0	0	39,440,000	0	39,440,000
2.記念基金運用収入	0	487,327,243	0	0	487,327,243
3.雑収入	11,848,447	0	0	0	11,848,447
4.特定資産取崩収入	190,000,000	0	0	0	190,000,000
5.繰入金収入	526,767,243	0	0	△526,767,243	0
当期収入合計	728,615,690	487,327,243	39,440,000	△526,767,243	728,615,690
前期繰越収支差額	209,656,175	0	0	0	209,656,175
収入合計	938,271,865	487,327,243	39,440,000	△526,767,243	938,271,865
II 支出の部					
1.事業費	273,531,650	0	0	0	273,531,650
2.管理費	110,273,393	0	0	0	110,273,393
3.繰入金支出	0	487,327,243	39,440,000	△526,767,243	0
4.寄付金支出	237,840,000	0	0	0	237,840,000
5.特定資産支出	150,000,000	0	0	0	150,000,000
6.退職給与引当預金支出	24,000,000	0	0	0	24,000,000
当期支出合計	795,645,043	487,327,243	39,440,000	△526,767,243	795,645,043
当期収支差額	△67,029,353	0	0	0	△67,029,353
次期繰越収支差額	142,626,822	0	0	0	142,626,822

貸借対照表総括表 平成17年3月31日現在 単位：円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 資産の部					
1.流動資産	173,295,839	139,019,255	9,567,560	記念基金会計未収金 △139,019,255	173,295,839
2.基本財産	0	0	800,000,000	基本財産会計未収金 △9,567,560	800,000,000
3.その他の固定資産	176,428,120	9,200,000,000	0		9,376,428,120
資産合計	349,723,959	9,339,019,255	809,567,560	△148,586,815	10,349,723,959
II 負債の部				一般会計未払金	
1.流動負債	30,669,017	139,019,255	9,567,560	△148,586,815	30,669,017
2.固定負債	36,461,800	0	0	0	36,461,800
負債合計	67,130,817	139,019,255	9,567,560	△148,586,815	67,130,817
III 正味財産の部					
正味財産	282,593,142	9,200,000,000	800,000,000	0	10,282,593,142
負債及び正味財産合計	349,723,959	9,339,019,255	809,567,560	△148,586,815	10,349,723,959

財団の概要

名 称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所 在 地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136

役 員

平成17年3月31日現在

会長	今 井 敬 (社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	野 村 明 雄 大阪商工会議所会頭
理事長	豊 蔵 一 (社)日本野球機構セントラル野球連盟会長
専務理事	東 諄 常勤
常務理事	平 岡 順 一 常勤
理事	角 道 謙 一 農業者大学校名誉校長
理事	梶 本 徳 彦 大阪府副知事
理事	大 平 光 代 大阪市助役
理事	三 好 勝 彦 (財)日本造園修景協会相談役
理事	米 山 俊 直 大手前大学名誉教授
監事	石 井 國 男 公認会計士
監事	堀 井 良 殷 (財)大阪21世紀協会理事長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

評議員

平成17年3月31日現在

評議員会長	梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
評議員	青 木 保 之 (財)首都高速道路協会理事長
評議員	關 淳 一 大阪市長
評議員	太 田 房 江 大阪府知事
評議員	麻 生 渡 全国知事会会長
評議員	佐 藤 安 弘 キリンビール(株)相談役
評議員	長 倉 三 郎 日本学士院長
評議員	成 家 次 男 (社)日本造園建設業協会会長
評議員	波 多 野 敬 雄 学習院女子大学学長
評議員	濱 口 義 曠 (財)日本穀物検定協会会長
評議員	小 林 幹 司 前大阪商工会議所副会頭
評議員	小 林 庄 一 郎 関西電力(株)顧問
評議員	近 藤 公 夫 奈良女子大学名誉教授
評議員	佐 々 木 正 峰 国立科学博物館館長
評議員	畑 中 孝 晴 (社)農林水産先端技術産業振興センター理事長
評議員	松 下 正 幸 (財)松下幸之助花の万博記念財団理事長
評議員	御 手 洗 正 彦 日本放送協会大阪放送局局長
評議員	山 出 保 全国市長会会長
評議員	山 本 文 男 全国町村会会長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

顧 問

平成17年3月31日現在

大 島 靖 (財)大阪国際交流センター名誉顧問
河 合 良 一 (財)日本花の会会長
岸 昌 大阪府立中之島図書館名誉館長
中 川 和 雄 (財)大阪府地域福祉推進財団元会長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

参 与

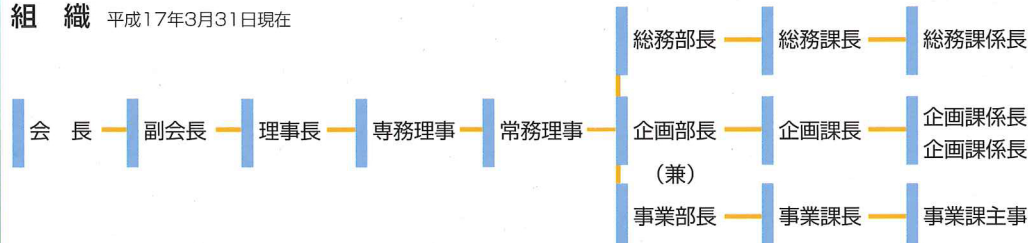
平成17年3月31日現在

泉 眞 也 環境プロデューサー
岩 槻 邦 男 放送大学教授
久 野 明 子 (社)日米協会専務理事
澤 田 隆 治 (社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
平 野 侃 三 (財)都市緑化基金理事長
樋 口 春 三 東京農業大学名誉教授
松 延 洋 平 ジョージタウン大学客員教授
松 本 洋 (財)国際文化会館顧問
山 口 廣 三 (社)国際建設技術協会参与
ルイ・サトウ 在仏建築家

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

組 織

平成17年3月31日現在



2005年度(平成17年度)事業計画

博覧会に関する記念事業

1.2005年(第13回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2005年(第13回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成17年度は、第13回目の受賞者の選考、決定および2006年(第14回)の選考準備を行います。第13回の受賞者は7月中旬を目途に承認、発表し、秋季に授賞式を開催します。

2.受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期:平成17年秋

開催場所:東京と大阪の2カ所

3.15周年事業

①「花端会議2005」等

花の万博開催15年目にあたる平成17年春に、花の万博の開催地であった大阪鶴見緑地において、博覧会の理念の継承発展・普及啓発を目的とした「花端会議2005」等を開催します。

②花と緑に関する国際シンポジウム

花の万博開催15周年にあたり、花と緑に関する国際シンポジウムを大阪において開催します。

③周年記念コスモスセミナー

コスモスセミナー10周年にあたり、これまでの成果や活動を広くPRするとともに、今後の参加・運営体制づくりに資するため、従来のセミナーに加えて、講演会、展示会等の特別の行事を開催します。

④「花博記念協会中長期ビジョン」及び「行動計画」の策定
協会の今後の運営および事業実施の指針とするため、花の万博の理念の今日的意義や将来の財政見通しを考慮して、中長期の視点からのビジョンをとりまとめ、その具体化のための計画を策定します。

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

1.映像による日本植物誌事業(PPH:プラントフォトハンティング)

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像(約850時間・約4,000種)のデータベースを保存するとともに、利活用方策に関する検討をもとに、具体的な活用を推進します。

2.花の万博映像の保存事業

花の万博開催時に撮影されたハイビジョン等の動画、記録映像の保存のためデジタル処理等を昨年度に引き続き実施するとともに、公式記録映画フィルムの内容調査を行います。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1.理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物の保存活用と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状を把握し、植物の保存・活用、技術の継承、人材の育成等の方策について、有識者、関係機関、関係団体等により構成する研究会を中心に調査・検討を進めます。

2.理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、コスモス賢人会議(平成7年および10年に開催)で提唱された「アカデミア・コスモサーナ」の具体化として、自然科学、人文・社会科学等の各分野を超えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、「コスモス国際賞」に関係する学者、知識人等を講師に招き、関係団体との共催でセミナー(講演会、自然観察教室、講師派遣)を実施します。

3.花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくりおよびまちづくり」を目的として、農林水産省ならびに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成17年度は15回目を迎えます。

主催:花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)日本花の会、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、
(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱい国土、社会ならびに日常生活を実現するため、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているもので、平成17年度は15回目を迎えます。

ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふ

主催:ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふ実行委員会

〔(財)日本花普及センター、(財)国際花と緑の博覧会
記念協会、東海地域花き普及・振興協議会、
岐阜県園芸特産振興会、(財)花の都ぎふ花と緑の推
進センター、可児市、岐阜県ほか〕

期日:平成17年5月13日(金)~15日(日)

会場:花フェスタ記念公園(花フェスタ2005ぎふ開催会場)内

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体および各種団体等との共催等により実施します。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

4.花と緑に関する国際交流の推進

日本国政府が参加する大園園芸博覧会への出展協力や、海外における日本庭園の実態について情報収集を行うとともに、花と緑に関する国際交流について、関係機関および関係団体との連絡調整を行います。

5.花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展および普及啓発に資する「調査研究開発」および「活動・行催事」を支援するため、公募による助成を行います。

6.情報発信運営に関する業務

◆協会等ホームページ運営等

協会が実施する事業等への理解促進および普及のため、協会のホームページの充実を図るとともに、「コスモス国際賞」およびKOSMOSフォーラムのホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレットおよび年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築事業

「コスモス国際賞」をはじめ、その他協会事業の認知度を高めるため、プレスとの共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

花の万博理念の普及啓発に資するため、「コスモス国際賞」の意義、受賞者の研究業績、記念講演会、授賞式の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等のほか、受賞者等との連携により各種の情報を収集し、これらの利活用を行います。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://expo90.jp>

表紙の写真：2004年(第12回)コスモス国際賞受賞者フリーヤ・カラビアス・リジョ教授の出身国、メキシコ原産チトニア(メキシコひまわり)を授賞式用にデザインしたコサージ・ブートニアです。